

“高病原性鳥インフルエンザ・豚熱の侵入防止のため” 冬季の消毒は工夫しながら徹底を！

家畜の健康をおびやかす病原体の侵入防止のため、こまめな消毒が重要です。しかし、冬季は、消毒効果の低下や凍結の恐れがあります。以下の対策を参考に適切な消毒の励行をお願いします。

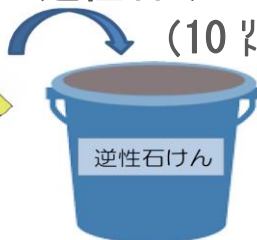
●逆性石けん(パコマ、クリアキル、ロンテクト、アストップ等)

踏込消毒槽や動力噴霧器で使用する場合、消石灰等を混ぜてアルカリ化することで効果が高まります！

消石灰 0.2%
(20g)



逆性石けん 200 倍液
(10ℓ)



消毒効果
アップ
pH12以上



※動力噴霧器で使用する場合は、消石灰の代わりに防疫資材としても使用できる食品添加物規格の高純度の水酸化カルシウム(例：フィーネナチュラル(FNP)パウダーなど)の添加がよいです。

●消毒薬の凍結防止

本県のような寒冷地では、冬季に液状消毒液が凍結し、消毒効果を発揮しにくい等の課題があります。工夫して効果的な消毒を実施しましょう。

【工夫例；長野県畜産試験場の実証試験から】

<比較試験>

- ①自作加温機＋消毒薬^{※1}
- ②不凍液^{※2}＋消毒薬
- ③消毒薬のみ

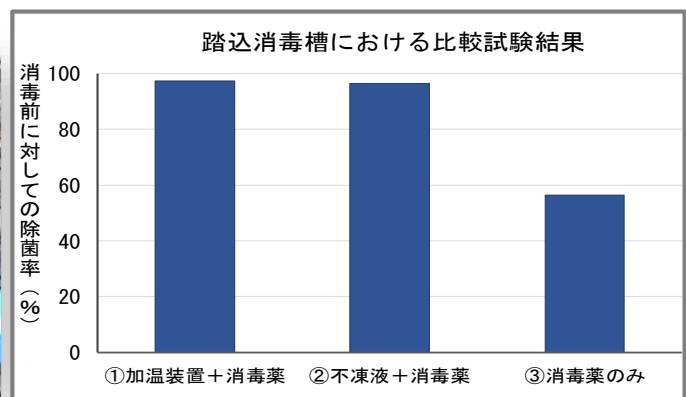
簡単に自作可能です。
踏んでも壊れません。



※1 アストップ(200倍液)＋水酸化カルシウム(FNPパウダー；フィーネナチュラル(株))

※2 畜産用の中性不凍液(ビバフロスティC；北海道日油(株))

<結果>

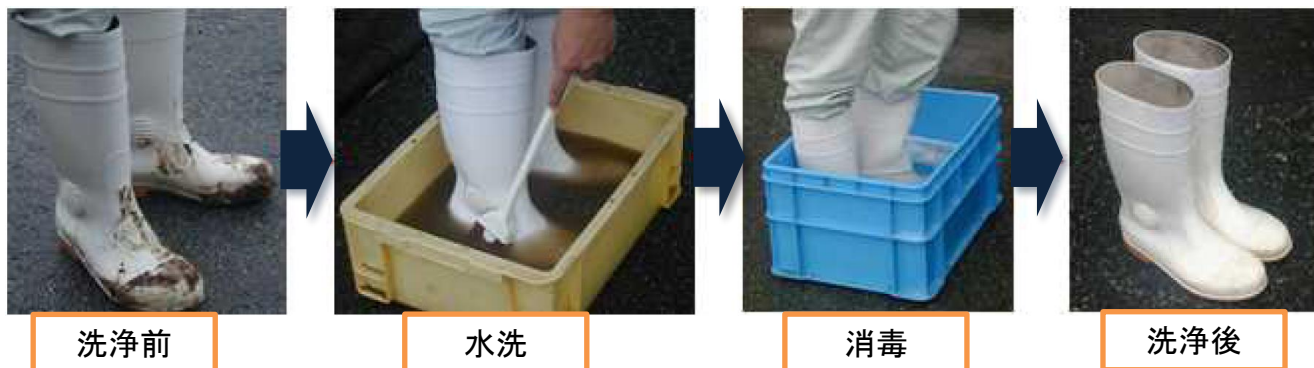


加温装置または不凍液を応用することで、凍結防止と消毒効果を確認！！

●汚れをしっかりと落としてから消毒しましょう！

踏込み消毒の前に、ブラシなどでしっかりと水洗することで消毒効果は飛躍的に向上します。

(写真は熊本県提供)



※病原体の持込み防止には、長靴の農場及び畜舎内の専用化が重要です。

また、飼養衛生管理基準で畜舎ごとの長靴の設置は必須です。

★注意★ 消石灰は粉体では強アルカリではありません

踏込み消毒槽に粉体の消石灰を入れても効果は期待できません。

消石灰は、待ち受け消毒して活用しましょう（農場入口等に消石灰を散布しておき時間をかけて糞等の有機物の中に含まれる病原体を不活化する等）。

なお、降雨後、乾燥すると変質するため、頻回散布する必要があります。

また、多量の消石灰の流入は水質に悪影響を及ぼすため、河川等へ流入しないよう注意してください。

鳥インフルエンザ、豚熱の発生防止のため 飼養衛生管理基準の自己点検をお願いします！

今シーズンも11月以降、国内での相次ぐ高病原性鳥インフルエンザの発生、依然として散発する豚熱の発生防止のため、飼養衛生管理基準の徹底が必要です。

特に特に大事な下記の項目については、飼養衛生管理者による定期的な自己点検による遵守の徹底をお願いします。

<重要項目>

- ◇ 衛生管理区域に立ち入る人の手指消毒
- ◇ 衛生管理区域専用の衣服と靴の設置・使用
- ◇ 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒
- ◇ 畜舎・家きん舎に立ち入る人の手指消毒
- ◇ 畜舎・家きん舎ごとの専用の靴の設置・使用
- ◇ 畜舎外での病原体の汚染防止
- ◇ 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒
- ◇ 野生動物の侵入防止のためのネット設置と点検、補修
- ◇ ネズミや害虫の駆除

高病原性鳥インフルエンザ

今季は既に8県9例発生(約46.8万羽)
(秋田1、鹿児島2、兵庫1、熊本1、千葉1、
埼玉1、広島1、青森1)

豚熱

2018年9月以降、16県76例発生
(145農場・5と畜場、約28万頭)
ワクチン接種農場でも発生(21例)
ワクチン接種推奨地域は36都府県

基準の遵守状況について、家畜保健衛生所が電話等で確認をすることもありますので、その際はご対応をよろしくお願いいたします。

家畜・家きんの異常を確認したら佐久家保(0267-62-4123)へご連絡ください。